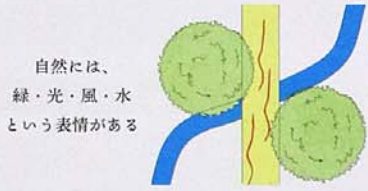


幽玄茶寮

「いままで」の日本建築に見られる幽玄さを、「これから」の茶寮に落とし込む



自然には、
緑・光・風・水
という表情がある

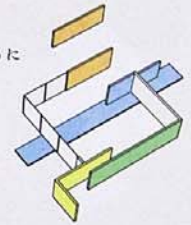
自然的要因は森・露地の中に
存在しつづける

4つの要素をほどき、
それぞれの表情を持った層を作る



緑、緑と光、緑と光と水...のように
層（レイヤー）を重ねていく

異なる用途の空間に
レイヤーの表情を落とし込む



空間をずらしながら、
重ねること
先の空間への期待感を煽る

静かな森の中に佇む
露地の入り口

遠くに見える茶寮を眺めながら
自然の中の狭い路地を進む

長い路地の途中にある待合で
「いままで」の茶空間を堪能しながら、休憩する

茶寮に到着すると、
幽玄な「これから」の茶空間が待ち受けている



・いままでから始まる門



・これからを見つめる待合



・光のエントランス



・風のテラス

水盤：
水盤を通して、一つの大きな空間を緩やかに分ける。

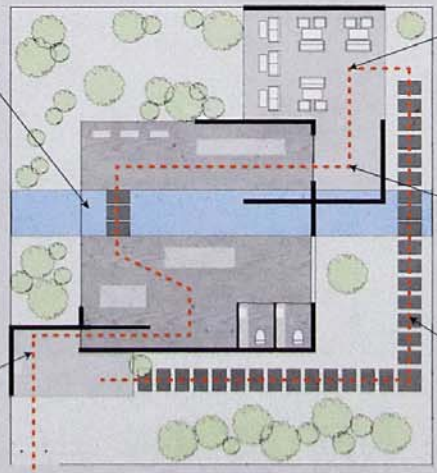
柔らかく、落ち着く空間
＜飲むための茶空間＞



静かで、重なる空間
＜買うための茶空間＞

水盤が、内と外をつなげ連続することで、
外の要因と中の要因をつなぎあわせる。

光のエントランス：
天井に映る光の道。
人の五感である視覚があなたを次の空間に誘うだろう。
あなたは、ここでなにを期待するのだろうか。



風のテラス：
並行する二つの開口に沿って風が流れる。
水の音、差し込む太陽の光、
額縁のように切り取られた景色によって
あなたはここで、再び自然と一体になる。

滝の間：
壁には、水が伝い滝のように水盤に水を落とす。
人を滝の音で誘い、
滝の音で癒されるだろう。

アプローチ：
奥に進むにつれ、自然と一体になる。
回避性を用いることで、流れるように
帰路につく。